

内シャント造設後のシーネ固定に関する一考察

—角度をつけたシーネを装着した看護婦12名へのアンケート結果より—

A棟6階南病棟

○岩本有里 小林倫子
畠山敬世 生駒清子
森川祐美

1. はじめに

血液透析を維持するうえで内シャント（以後シャントとする）の造設は不可欠なものである。当病棟では、シャント閉塞を繰り返し利き手の肘関節に近い部位にシャントを造設するケースも多くみられる。術後、数日間はシャントめうっ血と閉塞を予防するためにシーネと腕をエスパ帯で巻きテープで固定し、シャント肢を保護している。

シーネ固定は、創の安静においても治療上有効なものであると言われている。従来使用しているシーネは指先から腋窩まで及んでおり、患者からパジャマのボタンが留めにくい、ご飯が食べにくいなど生活をする上で邪魔なものという言葉が聞かれることから、術後のADLの縮小につながっているという問題や水平固定による苦痛もあると考え、改良の必要性を感じた。そこで①シーネに角度をつけたり短くすることでADL拡大につながる、②角度のあるシーネは痛み、しびれがないをあげ、シーネの角度や長さを調節することで術後のADLの向上が図れ、また安楽になるのではないかと仮説をたて調査したのでここに報告する。

2. 研究期間及び対象

研究期間は、平成12年8月7日から同年9月11日までの36日間とし、対象者は当病棟で勤務する20代から30代の健康な看護婦12名とした。アンケート回収率は100%であった。

3. 研究方法

第一段階として、現在血液透析を行っている患者および医師の協力のもとドップラーによるシャント肢の血流測定を行った。90度まではやや血流は悪くなるがほとんど差はなく、90度以上で著明に血流の低下が見られた。(図1)「シャントの術後は閉塞が起りやすく術後数日間は、90度以上に肘関節を屈曲しないよう患者を指導する」と栗山も述べていることから90度以下の角度設定は可能でありシャント肢にも影響がないといえ、シーネの角度は従来使用している0度と30度、45度、60度を比較した。(図2)長さは、従来使用している腋窩から指先までのものと腋窩から5cm短い手関節までのものを比較した。

第二段階として対象者にはパジャマ式病衣を着用し利き手にシーネを幅9cmのエスパ帯1本

を使ってらせん帯に巻き、巻き終わりを伴創膏固定した。シーネは株式会社日本シグマックス製ソフトスプリント2cm×6cm×50cmを使用した。そしてシーネを固定した状態でアンケート内容の行為を行ってもらい、実行可能か不可能かを4段階評価で、また精神的にも満足したかを3段階評価で回答してもらった。対象者に0度から30度、45度、60度、そしてその中で最も良い角度を選んでもらい、その角度でシーネを短くした。アンケートの回答に有効性をもたせるために当病棟処置室の同一環境下で3日以上あげ実施した。アンケートは、ペンダーソンの「看護の基本となるもの」の基本的欲求14項目をもとにシーネ固定をする上で阻害されていると考えられる更衣、食事、清潔、排泄、休息の5項目をあげた。(表1、2) アンケート結果は、全項目において得点化し、アンケートの点数(以後点数とする)が低くなるほどアンケート内容の行為が可能であり精神的にも満足であるとした。

4. 結果および考察

全ての項目において角度が大きくなるにつれ点数が小さくなり、一人でできると答えた人が多くみられたことから、自分一人でできるということが満足感の上昇につながり、満足度も大きくなったと考える。(図3) シーネを短くしても清潔項目の満足度以外変化はみられなかった。(図4) 清潔行動は、個人で方法の違いが大きく、シーネを短くすることで指先が使いやすくなったと思われ、より個人のニードが充足されたのではないかと考える。食事も指先の細かい動作が必要であるが、箸以外にスプーンを使用したり健側で摂取する事もできたため、変化がなかったと考えられる。痛み、しびれ、肩こりは、0度の時が一番多く、角度をつけると減少し、45度以上では変化がみられなかった。(図5) 痛みの部位として、上腕から肘関節という回答に集中しており、肘関節を伸展した状態で固定するため0度に痛みが生じ角度をつけることで軽減できたと考える。肩こりは、どの角度でも認められ、シーネで固定するという圧迫感により生じたと思われ、角度を変えても変化がなかったと考える。シーネの角度は、45度と60度が楽であるという意見が50%ずつであった。(図6) 角度をつけることで動作が行いやすく、より良肢位に近づくため安楽になったと考えられる。

5. 結論

今回の実験、アンケート調査から①全ての人が角度のあるシーネを選んだ、②角度のあるシーネの方が痛み、しびれを軽減できるということがわかった。

6. 終わりに

今回の調査で個人差により角度にばらつきが生じたことから今後個別性を再度認識し、基本的欲求が充足できるように医師と検討する必要性を感じた。シーネに改良を加える事で術前の自分のベースに近づく事ができると考えるが、指先を使う細かい動作にはより注目し、個人にあった介助や指導が必要になると考える。術前オリエンテーション時にその人にあった角度や

長さを選択し、術後の自立への援助につなげていきたいと思う。

引用文献

栗山哲；JNNスペシャルNo.62透析ナースング；医学書院；1999

参考文献

- 1) 秋葉公子他；ヘンダーソン看護論の実践第2版；広川書店；1999
- 2) 氏家幸子他；基礎看護技術II；医学書院；2000
- 3) 平沢由平；透析生活マニュアル改訂増補版；日本メディカルセンター；1987
- 4) 宇田有希；透析療法と看護；ライフサイエンスセンター；1979
- 5) 高橋美智；系統看護学講座別巻3リハビリテーション看護；医学書院；1999

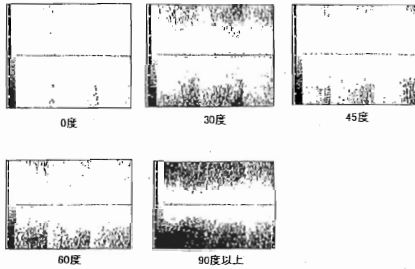


図1 シヤント肢のドップラーによる血流測定

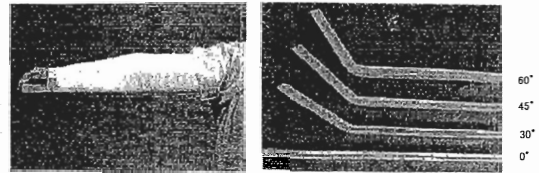


図2 シーネ固定と角度

表1 アンケート

今回私達は、ブラッドアクセス増設後の固定について、研究を行うことになりました。従来使用しているシーネでは、腕を動かさにくくADLの縮小につながっているため、シーネの角度や、長さを調節することで少しでもADLの拡大につながるのではないかと考えました。

そこで、角度や長さの違うシーネを実際に付け、下記の行動を行い、アンケートに答えて感想をお聞かせ下さい。

<p>更衣)</p> <p>1. 病衣を着てください</p> <p>2. 利き手にシーネを付けます</p> <p>3. 着ていた病衣を脱いでください</p> <p>4. 脱いだ病衣を着てください</p> <p>5. 靴下を脱いでください</p> <p>6. 靴下をはいてください</p>	<table border="0"> <tr> <td>1-人で出来る</td> <td>2-人で何とか出来る</td> <td>3-介助で出来る</td> <td>4-出来ない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </table>	1-人で出来る	2-人で何とか出来る	3-介助で出来る	4-出来ない	1	2	3	4
1-人で出来る	2-人で何とか出来る	3-介助で出来る	4-出来ない						
1	2	3	4						

更衣に関して、丸をつけてください
(満足できた 2.どちらでもない 3.満足できない)

<p>食事)</p> <p>1. シーネ固定した手で着、又はスプーンでごはんを食べてください</p> <p>2. シーネ固定した手と反対側の手で食べてください</p> <p>3. 錠剤、散剤、カプセルを開封し、口まで運んでください</p>	<table border="0"> <tr> <td>1-人で出来る</td> <td>2-人で何とか出来る</td> <td>3-介助で出来る</td> <td>4-出来ない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </table>	1-人で出来る	2-人で何とか出来る	3-介助で出来る	4-出来ない	1	2	3	4
1-人で出来る	2-人で何とか出来る	3-介助で出来る	4-出来ない						
1	2	3	4						

食事に関して、丸をつけてください
(満足できた 2.どちらでもない 3.満足できない)

<p>清潔)</p> <p>1. 顔を洗ってください</p> <p>2. 歯を磨いてください</p> <p>3. 髪の毛をいつものように整えてください</p>	<table border="0"> <tr> <td>1-人で出来る</td> <td>2-人で何とか出来る</td> <td>3-介助で出来る</td> <td>4-出来ない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </table>	1-人で出来る	2-人で何とか出来る	3-介助で出来る	4-出来ない	1	2	3	4
1-人で出来る	2-人で何とか出来る	3-介助で出来る	4-出来ない						
1	2	3	4						

清潔に関して、丸をつけてください
(満足できた 2.どちらでもない 3.満足できない)

表2 アンケート

排泄

1. スボンを下げて便器に座り、紙で拭いてください
 2. スボンを上げてください

1.一人で出来る 2.一人で何とか出来る 3.一介助で出来る 4.出来ない

1. 満足できた 2.どちらでもない 3.満足できない

休息

1. 坐位から臥位になってください
 2. 寝返りをうってください
 3. リラックスして(10分間)
 4. 臥位から坐位になってください

1.一人で出来る 2.一人で何とか出来る 3.一介助で出来る 4.出来ない

1.満足できた 2.どちらでもない 3.満足できない

最後に...)

1. 痛みはありましたか (1.はい 2.いいえ)
 2. はいと答えた方は、どこが一番痛いと感じましたか?
 3. 手はしびれましたか (1.はい 2.いいえ)
 4. 肩はこりましたか (1.はい 2.いいえ)
 5. この状態が続くとしたらどう思いますか

60度終了時にお答えください)

1. 全ての項目において何度が一番楽であると感じ、各項目が円滑に行えましたが (1.0度 2.30度 3.45度 4.60度)
 2. 長さは短いのと長いのどちらが良かったですか (1.短い 2.長い)

休息に関して、丸をつけてください (1.満足できた 2.どちらでもない 3.満足できない)

御協力ありがとうございました

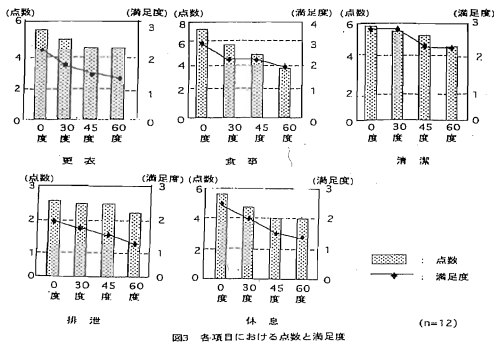


図3 各項目における点数と満足度 (n=12)

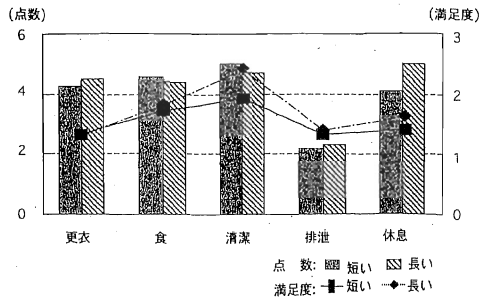


図4 最も良い角度の、長いものと短いもの比較

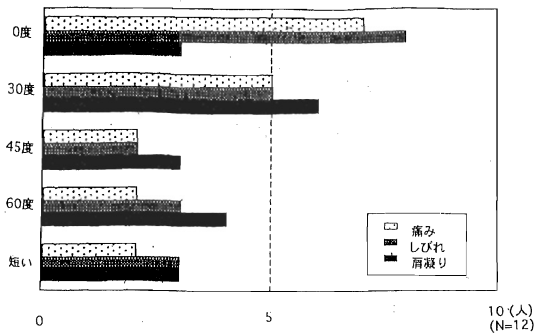


図5 シーネ装着中痛み、しびれ、肩凝りがあると答えた人

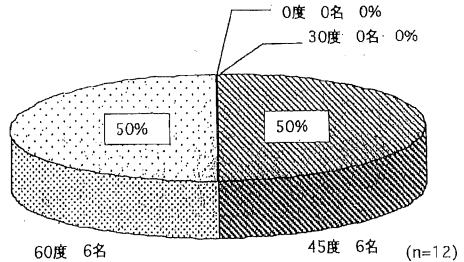


図6 最も良いとしたシーネの角度